NIE実践報告

1．タイトル：情報を引き寄せる、共有する ～スクラップ帳２年目の反省～

２．学校名

新潟県立六日町高等学校

３．実践者名（代表者名）

美濃山　ゆず

４．学年

２学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

ＨＲおよび現代文・普通科生徒３１１名

６．単元（本時の学習課題）名

グループごとに新聞のスクラップ帳を提出・回覧する

７．目標(狙い)

新聞というツールから自分の欲しい情報を探し出す

８．評価の視点

小論文等、進路に関わる情報収集力や多角的な視点が身についたかどうか

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

各ＨＲを中心に通年で行う

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

４月ＬＨＲ（１時間）
　新聞係の選出を行う
　新聞係：毎日の教室掲示および月１回程度の古紙回収
　全員　：スクラップ帳を各グループに１冊配布し、週１回その週の記事を一つ
　　切り抜き、コメントを書いて提出させる。
８月（夏季休業中）
　「いっしょに読もう！新聞コンクール」を現代文の課題として２学年全員に配布、２学期始業時に提出
１月ＬＨＲ（１時間）
　新聞及びスクラップ帳に関する事後アンケートをとる
２月（学年末考査以降）
　現代文の評論対策および小論文対策として、社説限定のスクラップを週末課題　として全員が取り組む

11．児童・生徒の反応、感想・意見

他の人たちの選んだ記事を見ると、きちんと時事問題の記事について考えているので、自分が選んだ記事をもう少し考えてみようと思いました。／新聞の記事は簡潔に分かりやすくまとめてあり、また起承転結の順に書かれているわけではないということも分かった。

12．成果と課題

各教室に新聞があるという環境は、意識の高い生徒にとっては共通の話題作りにもつながり、有益であった。スクラップ帳については、やはり個人差が大きく、グループ形式に改良を加えても提出率は上がらなかった。ただ、同時実施した１学年でも新聞を積極的に読む姿が増え、また２学年で２名ではあるが、この夏の「いっしょに読もう！新聞コンクール」において受賞者が出た。この２年間の取り組みが生徒一人ひとりの成果として現れるかは、次年度、受験生になったときに積極的に新聞を情報収集の手段として取り入れ、小論文や面接において発揮できるかによるので、引き続き新聞の設置を検討し、活用していきたい。